

スクールホットライン

「全校で作り上げた文化祭」from 豊山中学校

去る、十月二十七日、体育館及び武道場等を会場に文化祭が開催されました。今年度は、「豊中革命! みんなで踏み出す新たな一歩」のスローガンのもと発表が行われました。

吹奏楽部は、大勢の部員がまとまった、迫力のあるすばらしい演奏をしました。保健委員会は、睡眠の大切さを、発表の仕方を工夫して分かりやすく伝えました。英語部は、毎日の練習の成果が生かされた、レベルの高い発表を行いました。

武道場での作品展では、各教科や文化創作部の作品、PTAのお母さん等がグループ活動で製作された力作が展示され、どれも見応えのある作品でした。

合唱コンクールは、各学級の人間関係を深め、豊かにする絶好の機会と、担任と生徒が一緒になって寸暇を惜しんで練習する姿が見られました。多くのクラス



が、それぞれの個性を表した発表となりました。練習の甲斐あって、当日はどのクラスも素晴らしい歌声で、採点する審査員を困らせました。とりわけ三年生は、合唱に寄せる強い想いが伝わってくる発表で、聴く人の心を打ちました。合唱を聴かれていた保護者の方の中には、生徒たちの一生懸命な姿にとっても感動され、思わず涙を流されていた方もおみえでした。

PTA・職員合唱では、有志の保護者と先生によって、今年度はミュージカル「レ・ミゼラブル」の中の『民衆の歌声が聞こえるか』という曲を合唱しました。短い練習でしたが、きれいなハーモニーを奏でることができました。

どの発表もレベルの高いものとなりました。参観いただきました皆様、ありがとうございました。

と、うございました。



私の航空史

岡野允俊

小牧工場竣工

国有地の払い下げが実現し、雑草の生い茂る現地が整地された。昭和二十七年八月には、大府飛行場から最初の格納庫が小牧へ移築され、同年十一月には第一格納庫として完成し、小牧工場の竣工式が挙行された。

小牧山を遠くに望み、小牧飛行場の滑走路に連なる誘導路、エプロンが半年前の荒野に堂々と完成した。この後、相次いで第二格納庫（戦中は名古屋港国際飛行場にあつたもので三菱が「港整備工場」として使用していたものを国に移管され、今回財務局の競争入札で取得したもの）を、さらに第三格納庫（戦中は鈴鹿飛行場にあつたもので「三菱鈴鹿整備工場」として使用していたものを払い下げたもの）を建設した。

こうして工場の外殻は整えられたが、戦後七年にわたる技術の空白は如何ともし難く、戦後ふたたび航空機生産再開となった場合を考慮して、それぞれ東京、京都、水島、三原などの事業所において温存してあつた頭脳、技術者たちを再び名古屋に集めた。同時に直接作業する人たちは立川の米軍基地に赴かせ技術の研修をさせた。ここに技術（ソフト）と設備（ハ

ード）両者がそろい航空機のオーバーホール作業が地についていった。昭和二十八年六月、最初の機体C・四六輸送機などが搬入され、従業員二百名で小牧工場はスタートした。昭和二十九年、私が小牧工場に来たとき、F・八六Fジェット戦闘機のオーバーホールが始まっており、機体はもちろん、米軍の整備、管理システムは上手くできており驚いたものである。

その頃、まだ基地内には戦中の陸軍の戦闘機（三式戦闘機 飛燕）の掩体壕が五つ、六つ残っていた。昭和三十七年、戦後わが国初の開発機YS-11が、翌三十八年にはMU-2が、そしてその後S-62、T-2、F-1、MU-300、CCV研究機、F-2、MH-2000等々戦後の日本の新しい翼が、この小牧南工場で巣立ち名古屋空港から飛び立っていたのである。



昭和30年頃の小牧飛行場

- 特集①
- 町政あんない
- 特集②
- 情報コーナー
- まなびすと
- キラリ健康ナビ
- わいわいプラザ